

消化器内科

文責：花園 忠相

概要

2021年度の常勤医は森健治（S63年卒）、花園忠相（H22年卒）、播磨博文（H21年卒）、川野道隆（H22年卒）の4名で、山口大学第一内科からの派遣医師である。

森医師の院長就任に伴い勤務形態に変化はあるが、これまでと同様に全ての領域の消化器疾患に対応できる体制を維持している。最近の傾向としては、C型肝炎の治療が進んだことにより肝硬変・肝癌等の肝疾患の治療は減少しているが、早期消化管癌の治療に関しては、特に大腸のESDが増加している。近年増加傾向の炎症性腸疾患に関しては、外来・入院含めて多数の症例の治療を行っている。また、小腸内視鏡を常備しているのは市内では当院のみであり、小腸疾患の精査・治療も積極的に行っている。胆膵領域では専門医を2名擁しており、ダブルバルーン内視鏡や超音波内視鏡も常備しているため、市内や近隣の医療圏でもトップクラスの診療を提供できている。

診療

外来は月曜日以外は毎日1名が担当している。どの曜日でも領域を問わず診療を行っているが、新患・紹介患者が多く、再診や急患を含めて全て1名で対応しているため、日によっては患者さんに長い待ち時間が発生している。

検査に関しては新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、午前は健診を含めた上部消化管内視鏡検査、午後は下部消化管内視鏡検査を行っている。検査と並行して治療内視鏡やインターベンションも随時行っており、日中には病棟業務に専念することが難しいのが現状である。

病棟

平均入院患者は約40～50人前後。前述のように日中には病棟に滞在することが難しいため、病棟看護師にはご迷惑をおかけしている。

検査・治療件数（2021年度）

上部消化管内視鏡検査(EGD)(下記含む)	4,866例
└ 粘膜切除術(EMR)	9例
└ 粘膜下層剥離術(ESD)	39例
└ 超音波内視鏡検査(EUS)	101例
└ 食道静脈瘤硬化療法、結紮術(EIS、EVL)	34例
└ 胃瘻造設術(PEG)	32例
└ 小腸ダブルバルーン内視鏡(上部)	21例
└ 小腸カプセル内視鏡	9例
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	317例
下部消化管内視鏡検査(CS)(下記含む)	1,702例
└ ポリペク	380例
└ 粘膜下層剥離術(ESD)	21例
└ 小腸ダブルバルーン内視鏡(下部)	8例
緊急内視鏡検査	38例
	┌ 上部 20例
	└ 下部 18例
肝生検	13例
ラジオ波	2例
腹部血管造影	47例
計	6,985例

施設認定

日本内視鏡学会 指導連携施設

日本胆道学会 認定指導施設

今後もこれまでの診療ペースを維持することはもちろん、学会発表や論文作成等の学術的活動にも注力する。